



写真：松本城 大庭 茂



第 176 号
平成 31 年 2 月 20 日

発行所
東京婦人子供服
縫製工業組合
文京区本駒込 6-2-19
電話 (3946) 2481 (代)
<http://www.tokyomade.jp>



年頭の挨拶

理事長 大庭 茂



明けましておめでとうございませう。

旧年中は組合事業に多大なるご協力を頂きありがた

うございます。

年頭の挨拶

副理事長 白石 正裕

新年あけましておめでとうございませう。

最近では、厚生労働省の改ざん問題がクローズアップされていますが国民所得を引き上げなければならぬと躍起になった現れと考えられます。

現に最低賃金を上げれば、自動的に平均所得は上昇します。政策は間違えていないと思いますがあまりにも長い期間の不況状態が世間に染み付き、急な舵取りが不可能だったことが原因ではないかと思われませう。

東京においては、今年の10月に最低賃金1,000円の大台に乗ることは確実と思われる。我々の糧である「加工賃」

うございませう。

大政奉還により、徳川の時代から明治へ、そして大正

昭和、平成と日本は百五十年に亘り、近代化へひた走って参りましたが、その歴史は正

に我々が携わっている洋服の歴史でもあるのかと私は思っています。当組合はその

半分近い七十年の歩みを刻んで参りました。その間には良い時代も有ったと記憶しております。しかし近年は厳しい状況が続く各社苦戦さ

うか？その要因のおおく外的な物では有りますが、そんな事を嘆いていても先に進めません。これから先も持続可能な企業を各社が模索し

は1時間に1,000円以上に値するのかなりの疑問を感じます。

例えば、1,000円に値したとしても、それ以上の生産性がなければ会社経営として成り立たないことは言うまでもありません。

健全な経営体系を構築するためにも、私たちのアパレルに対しての理論的な交渉力の強化や新たな仕組みの模索を真剣に考えなければならぬと考えます。

理論的な交渉力に関しては、昨年我々の上部団体である日本アパレルソーイング工業組合連合会（以下アパ工連）が作製した「ACCTシステム（アパレル コスト カリキュレーション システム）（以下アクト）」の活用をお勧めいたします。

アクトの作製目的は、縫製工場の健全な経営を行うためには「加工賃」を理論

活路を開拓して頂きたいと思ひます。

今年五月には、新しい元号がスタートします。そんな時代の流れに乗り遅れない様、そして先輩達が築き上げてきた業界を再度盛り上げる

為にも、組合は出来る限りの知恵を絞って、今年も活動して参りたいと思つております。その目標を目指す為、組合の在り方も時代にフィットさせる様に進めて参ります。よろしくお願ひいたします。

平成三十一年が各企業のご発展と組合員の皆様にとつてより良い一年になります様に、お祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

的に計算する必要性を必須としなければ、現状を変えることができないとの考えから作成が始まりました。

適正な「加工賃」を簡単な操作によつて導き出すことが出来るシステムです。

厚生労働省からの援助を得るための面接や書類作成、根幹であるデータベースを構築するための基本データの作成など岩崎会長他アパ工連の理事面々が全くの手弁当にて携わり完成まで至りました。

是非皆様にご活用いただき、業界全体の懐刀となればと強く念じております。

「アパ工連」と検索していただければ趣旨や内容を確認する事が出来ます。

また私も作製に深く携わりましたので個別にご説明することが出来ます。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。

平成三十一年 新年会

東婦組合新年会は、一月十八日（金）午後六時より上野不忍湖畔の東天紅・ルナホールにて来賓・組合員 四十五名の参加で和やかに開催されました。式次第は以下の通りです。

東京婦人子供服縫製工業組合

平成三十一年新年会 式次第

日 時 平成三十一年一月十八日（金）午後六時より
会 場 東天紅 ルナホール

司 会 常務理事 吉田 浩

一、開会のあいさつ 常務理事 吉田 浩

二、理事長あいさつ 理事長 大庭 茂

一、ご来賓ご祝辞

本組合賛助会 東鴨信用金庫 専務理事 吉川 清春 様

東京洋装協同組合 理事長 川村 行雄 様

東京アパレルソーイング工業組合 理事長 長谷川 政和 様

東京都中小企業団体中央会 事務局次長 小野塚 一彦 様

ご来賓のご紹介

乾杯 服装健康保険組合 理事長 辻 庸介 様

一、祝宴 常務理事 渡邊 和博

二、閉会のあいさつ



支部だより

江東支部 江東支部長 大川 昌治

平成三十年度江東支部活動を報告します。

五月十九日支部総会開催の為の拡大役員会を開きました。

五月二十六日会計監査を辺見監査役を迎え、会計内容を精査していただき承認してもらいました。

六月二日支部総会を「梅よし」にて開催し無事終了しました。その後、楽しく会食を参加者で行ないました。十二月八日忘年会を「二升

五合」で開催しました。美味しい和食をいただきました。ひさしぶりに全員参加になり楽しい一時を過ごしました。

翌年一月二十六日に支部会を開き、その後「磯六」で懇親会を行ない、美味しい魚料理を堪能しました。

なお、三月に熱川方面で支部旅行を行なう予定です。以上平成三十年度支部活動報告を終わります。



飯田橋支部 飯田橋支部長 又野 毅

「山陰・山陽の旅」

ホテルの窓のカーテンを引くと、朝もやの中から「大山」の頂が観えてきた。大山は中国地方の最高峰

(二七九二m)、日本百名山の一つでもある、郷土名として「伯耆富士」とも言われている、鳥取県のシンボルでもある。

今日も天気が良さそうだ、「山陰・山陽の旅」の二日目、スタートだ。

田舎道を三、四十分、吾らの団体バスは次の見学地である「足立美術館」に到着した。すでに駐車場は大型バスや一般の車が沢山いた。

テレビや雑誌等で下知識はあったが、この目で確かめたいと思っていた憧れの美術館だ。アメリカの日本庭園専門誌「Journal of Japanese Gardening」で十六年連続庭園ランキング日本一に選ばれている。

このような高い評価を得た背景には、毎朝開館前に全職員が一時休んで掃除をするなど、広大な庭園の細部まで維持管理が行き届いている点が高く評価されているそうです。

日本庭園の有様は詳しく知りませんが、「枯山水庭園」やその他六つほどの様式の美しい庭園があるそうです。四季折々の美しさ写真でしか知る由はありませんが、機会があれば体験したいものです。

足も疲れたので、館内の喫茶店でコーヒータイトムとして



ました。一杯千円は高くないかな。

店内の窓は大きな一枚ガラスで周りを囲われ美しい庭園がパノラマで観賞できます。

この様にこの庭園は、例えば金沢の「兼六園」みたいに庭園内を好きなように歩き回って観賞することは出来ません。

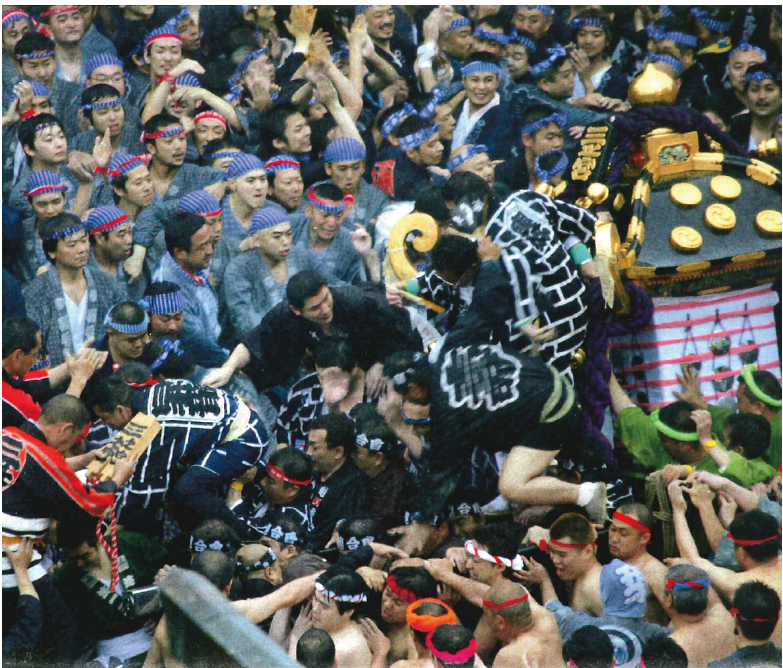
ここは「庭園もまた一幅の絵画である」という信念のもと、館内の窓に仕掛けがあり「生の額絵」や「生の掛軸」を上手く応用して

楽しむことが出来ます。またここは庭園ばかりで

城東支部 城東支部長 稲毛田宏之

平成三十年度の支部活動を報告します。

五月二日 総会 サンプル荒川
執行部会決算監査役員会
六月十六日 支部会 本部暑気払いに出席
七月二十日
十月二十日



はあります。日本一の横山大観のコレクション(二二〇点ほど)が充実しており、その他にも近代化日本画コレクションをはじめ、院展作家を中心とした現代日本画、北大路魯山人の陶芸など魅力的な作品があります。

「足立美術館」の創設者、ここ地元の出身者、実業家の足立全康氏に心から感謝いたします。

さて、時間も押し迫ってきました。次の目的地に行かなければならない、出雲大社に向かって。

支部会 いっさ
十二月二日
忘年会 浅草ビューホテル
三月九日
支部会 どん平

理事長ご夫妻に出席していただいた忘年会で、ホテルの二十五階からスカイツリーを見ると、その下に閑散とした浅草神社(三社) 浅草寺がライトアップしていました。三社祭の日曜の朝六時頃一万人以上の担手が神輿



の棒(特上先棒)を取り合っていた場所だと思うと、少し意味は違うのですが、松尾芭蕉が平泉で詠んだ「夏草やつわものでもが夢の跡」の句を思い出してしまいます。本社神輿三之宮(一ノ二まである)の宮出の発進の瞬間の写真です。私どこにいるかわかりますか？私たちの会祭好会といいますが約百名で参加しています。本年もよろしくお願ひ致します。

城北支部 城北支部長 増子 裕章



あけましておめでとうござ
います。平成三十年度城北支
部活動を報告します。
五月十一日
会計監査役員会 組合事務
所
五月三十日
支部定例総会 王子登喜川
七月二十日
本部支部合同会 丸八鮎
九月二十一日
支部会秋の懇親会打合せ
さかなや道場
十一月二日
懇親会夫婦同伴 王子登喜川

今年は夫婦同伴で近場で
美味しい物を食べたいとのこ
とで鰻屋にしました。大変喜
んでいただけた様子でし
た。沢山と馳走が出たせいか
最後のうな重は皆様お持ち
帰りなさっていました。やは
りお年のせいでしょうか？
今年は、渡邊和博様が支
部長として若いパワーで頑
張っていただけたと思います。
これからも本部・支部運営
にご理解とご協力を頂き、
健康で楽しい一年になります
ようにお祈り申し上げます。

城西支部 城西支部長 古川 進



平成三十年度支部活動
五月十八日
支部総会 池袋東明飯店
七月二十日
本部暑気払いに合流 東
鴨 丸八鮎にて支部会
十一月十八日
支部同伴食事懇親会 池
袋 ホテルメトロポリタ
ン、理事長夫婦御招待
平成三十一年七月二十六
日
支部会、初顔合せ 東武
練馬はなびし
本年は五月より年号が平成

から新しい年号に変わり気分一新
とはいかず、十月には消費税が
一〇パーセントになり諸物価の
値上がりが始まっている
様です。海外の国に比べれば
日本の消費税は低い様ですが
使い道の変更で社会保障が見
直され、日本国の借金が膨ら
んで財政が危ない状況、子育
世代への投資をして子供達に
借金を背負わせる、正気の沙
汰とは思えないこんな国に誰が
したと、成らぬ様願います。
本年も健康で楽しく過ご
せる様祈念しております。

外国人技能実習生受入事業

新たに平成二十九年十一
月一日から施行された外国
人技能実習制度のもと、引
き続き今年も平成三十一年
二月十三日から五社十三名
の技能実習生を受入れて、
一七六時間の入国後講習を
組合本部で実施していま
す。

受入企業と実習生数 (2019.2.15 現在)

社 名	実習生数
(株)ドウベル	4 人
中野縫製	2 人
中村ドレス(株)	8 人
(株)ファッションナカムラ	6 人
(株)福新ドレス	8 人
(株)ロング・ライフ	6 人
三好洋装(株)	6 人
合 計	40 人

外国人技能実習生受入の推移

第 一 期	4 社 12 人
第 二 期	6 社 19 人
第 三 期	7 社 20 人
第 四 期	10 社 32 人
第 五 期	10 社 32 人
第 六 期	9 社 25 人
第 七 期	9 社 25 人
第 八 期	8 社 23 人
第 九 期	7 社 16 人
第 十 期	6 社 14 人
第十一期	8 社 19 人
第十二期	8 社 17 人
第十三期	8 社 15 人
第十四期	7 社 17 人
第十五期	7 社 14 人
第十六期	6 社 14 人
第十七期	5 社 13 人



特色ある組合づくりに

昭和三十年代、東婦組合は
社員訓練と育成のために各支
部共東京都認定の職業訓練校
の運営をやって居りました。

全国各地より入社する新入
社員は職業訓練生として縫製
実技は職場内で服飾に関する
学科・製図は服飾系専門学校
で学んでおりました。

後に職業訓練法が制定され
技能と能力検定を身につけた
技能者を多く実社会に送り出
しました。

東京アパレルはこれにより
素晴らしい華が開きました。
縫製業界は機械化・自動化
が困難な職種としての特色が
あり、後進国または人件費の
安い国へと受注が偏ります。

世界的にみても東南アジア
等や後進国の産業と見られ
るのは残念なことです。

中央支部 木村 保男

木村保男コラム



人材育成部セミナー

常務理事 吉田 浩



今期も引き続き常務理事（人材育成担当）をさせて頂いておられます、城西支部の吉田です。まだまだ不慣れな点や行き届かぬ点が有るかとは思いますが、ご指導をお願い致します。

今期の人材育成セミナーとして、日本アパレルソーイング工業組合連合会（アパ工連）が平成三十年六月にリリース致しました「縫製加工賃交渉支援クラウド

い」とのご意見が有り、十月二十五日にACCCTシステムフォローアップ研修会を行いました。品番の入力から始まり、絵型を携帯端末で撮って貼り付け、各種係数の入力と工程の選び方などをへて、交渉加工賃を参加者自身が算出することが出来ました。

今回のセミナーで得たこととして、体験型説明会を開催し、その後のフォロー

アップ研修会等で実際に参加者自身が出来るまでフォローアップする重要性を感じました。説明会だけに留まらず実体験をしてもらい、その中から何かを得て頂ければと感じました。

これからも組合員の皆様にも、少しでも良かったと感じて頂けるように取り組んでまいりたいと思いますので、ご理解とご協力の程をお願い致します。



第八回「日本発ものづくり提言プロジェクト」

テーマ「変わらない現状、何を変えるか！」

貞末良雄委員長（鎌倉シャツ会長）の基調講演からの抜粋

このプロジェクトは、日本のモノ作りを再生させたいとの思いのもと八年間もやってきましたが毎年毎年日本の生産比率が下がる一方です。実はアパレルが日本の製造業に対して再評価をして戻ってくるに違いないと仮定した事がそもそもの間違えではなかったかと思う。

アパレルは非常に悲しい運命を持った構造体です。何故ならば百着売るためにはそれよりも多くを作らなければなら

ない。多く作った分及び売れ残りが在庫となり経営を圧迫する、そして工場や生地屋さんに行つて値切る日本で出来なければ海外に行く。平成の三十年の間にアパレル産業は約八割が消滅している、工場もかつての10%から5%しか残っていませんしアパレルも無くなっているんです。

「それでもアパレルに頼るのですか？」
私たちの会社は一九九三年にスタートしました。最終的に中国で売りたいと思っていました。先ずアメリカに出て服の先輩たる国でメイドインジャパンを評価していただきそれから中国に行くと考えた。そしてNY（アメリカ）では評価の高い成績を残すことが出来た。中国では全く知名度が無かったがアリババと縁を持ち、膨大な量を販売できる可能性を秘めている。多くの消費があれば、作る場所にも投資

が出来ると言ふことだ。私たちがお付き合いしている工場さんたちには、単なる工場経営者ではなく、広い意味で経営とは何だと言ふところに踏み込んでもらいたいと思つて

います。

私はいつも工場の方々に言っているがサッカーでもワールドチームを作らなければ世界には勝てない、日本の強い力を結集して新しいマーケットを開発し世界に行きましょう。

そして何よりもやらなければ事は始まりません、考えても行動を起こさなければそれだけで終わつてしまふ、変わるのだと言う強い気持ちが必要だと考える。

強く共感いたします。

白石正裕

三団体懇談会

常務理事 渡邊 和博



あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

昨年も二回目となる三団体揃つての懇談会を行いました。急遽決めた狭い会場での立食が参加者二十七名の距離を縮めたように思います。それと何よりも今回は東京洋装協同組合の皆様が司会、進行を務めて下さいました。前回とはまた違った雰囲気を感じ、より楽しい時間を過ごし

ました。

何を目的に集まるのか、何がしたいのか、これは人それぞれで答は一つではないと思います。まずはその「場」を作ること、今後も継続して行きたいと考えております。今回は東京アパレルソーイング工業組合の皆様が企画して下さいました。また違った形が見られるのではと期待しています。皆様の参加をお待ちしています。

訃報

（江東支部）
三好洋装（株）・大川千鶴子様（85）には、臍臓がんのため平成三十年十月七日に逝去されました。

（城西支部）
（有）ヤマト被服・水野あき子様（97）には、心不全ため平成三十年六月十三日に逝去されました。
ここに謹んでご逝去された方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。